

江 七

今月の江戸しぐさ「年代しぐさ」

江戸の人々は、人は下品（げぼん）に生まれ、世の中の役にたつ人間になるために中品、上品と上等になっていくべきと考えていました。その為に年代によって目標とされることが定められていました。

現代のようになんとなく歳をかさねていくというものではありませんでした。 ※特に子供は社会の宝として教育を重視し、町内全体で育てていました。

三つ心；三歳までに素直で、柔軟な、思いやりのある、感受性の豊かな心を養うこととされました。（三つ子の魂百までも）

六つ躰；六歳までに江戸しぐさを含む礼儀作法を習得しました。

九つ言葉；大人と世間話ができる社交性の獲得が目標とされました。

十二文；代筆ができるなど、きちんと文章をかけることとされました。

十五理（ことわり）；当時おとなとされる元服にあたって、世の中の道理を理解し、それぞれの個性にあった道を進むとされました。

三十而立（じりつ）；どのような人生になるか覚悟するべしとされました。

四十不惑（ふわく）；自らの道に迷いがなく確信をもつべしとされました。

五十知名（ちめい）；社会に対する自らが果たすべき使命を知るべし。

六十耳順（じじゆん）；人の言う事を素直に聞けるようになること。

七十従心（じゅうしん）；心のままにしても無茶にならず毎日が楽しい。

「年代しぐさ」をおまじないにすると、現代では忘れられている、歳を重ねるごとの理想とされた人のありかたを知っていることになります。

これは各年代において患者、職場や自分の人生の受け止め方に役立つかもしれません。 どうぞご活用を。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。



休息

ロバート フレデリック ブラム
Robert Frederick Blum
(1857~1903)

日本をこよなく愛したアメリカ人画家。

江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。

